

基本情報

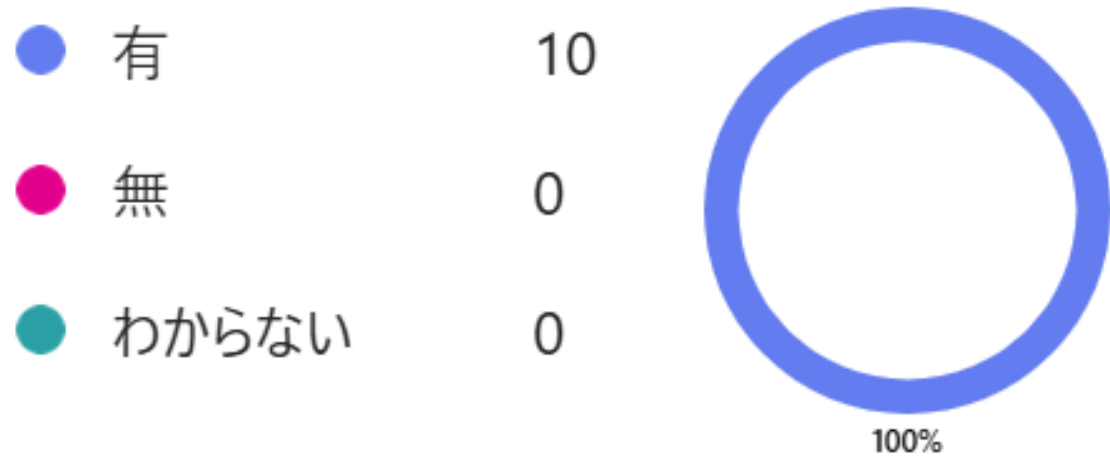
1. 図書館名（中国四国地区の国立大10館。下表の並び順とは異なります）

鳥取大学附属図書館中央図書館	島根大学附属図書館	岡山大学附属図書館	広島大学中央図書館	山口大学図書館
徳島大学附属図書館	鳴門教育大学附属図書館	香川大学図書館	愛媛大学図書館	高知大学学術情報基盤図書館

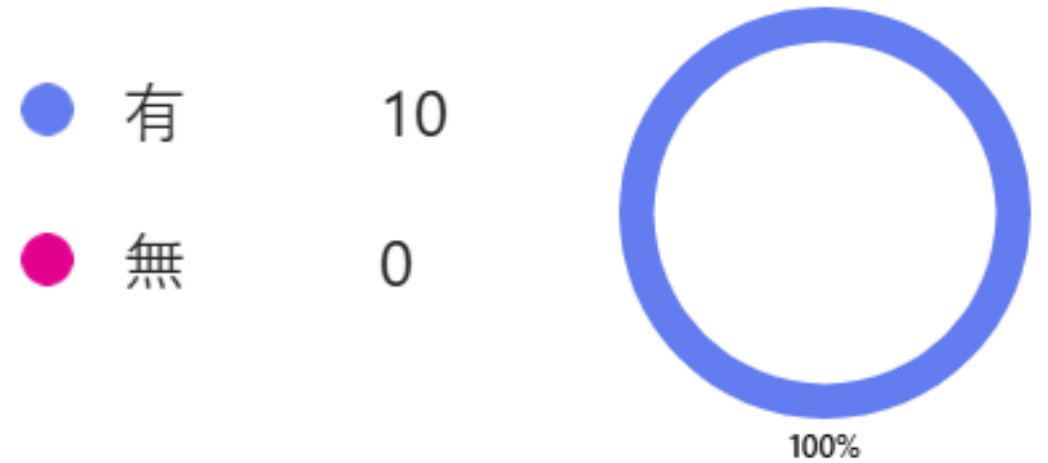
以下の設問については、中央館の数値になります。

2.蔵書数(2023年度末現在)	3.年間入館者数(2023年度)	4.階数	5.面積
989,845 冊	146,667 人	2階～4階（1階は他部局が占有）	7,320 m ²
377,825 冊	78,252 人	2階	3,504 m ²
494,317 冊	166,082 人	6階	5,582 m ²
482,169 冊	195,969 人	3階	5,112 m ²
2,268,294 冊	362,731 人	5階	16,053 m ²
851,222 冊	217,225 人	3階（書庫8層）	6,836 m ²
600,732 冊	153,172 人	4階	7,302 m ²
1,568,706 冊	338,559 人	1階～6階	16,374 m ²
536,953 冊	191,155 人	3階	4,380 m ²
1,330,904 冊	252,516 人	6階	8,667 m ²

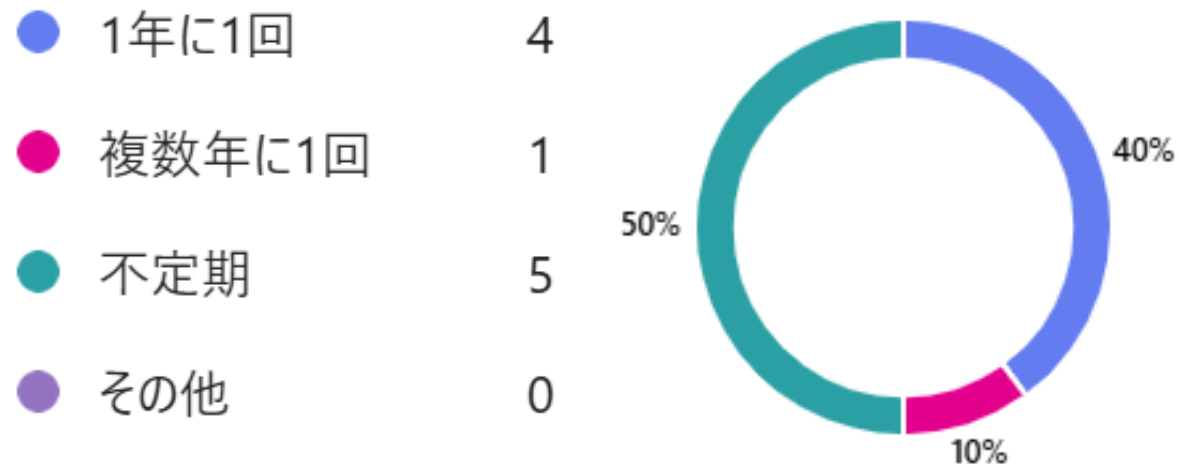
6. 全学防災マニュアルの有無



7. 図書館独自の防災マニュアルの有無



8. 図書館独自の防災マニュアルの見直し頻度



9. 避難訓練の実施有無



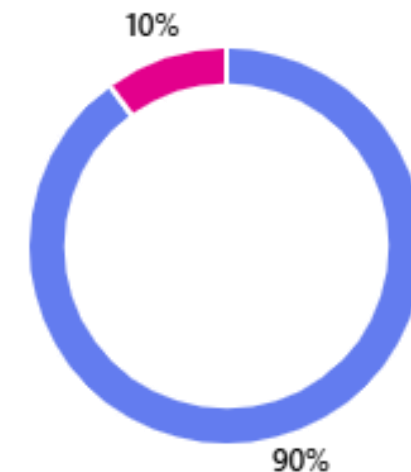
10. 避難訓練の頻度

- 年間1回 10
- 年間に複数回 0
- その他 0



11. 避難訓練の実施主体

- 全学の防災訓練と合わせて行う 9
- 図書館独自で行っている 1
- その他 0



12. 避難訓練の実施方法

- あらかじめ共有されたシナリオに沿って実施（シナリオ提示型） 10
- シナリオを共有せず、発災場所や内容を伏せられた状態から実施（シナリオ非提示型） 0
- その他 0



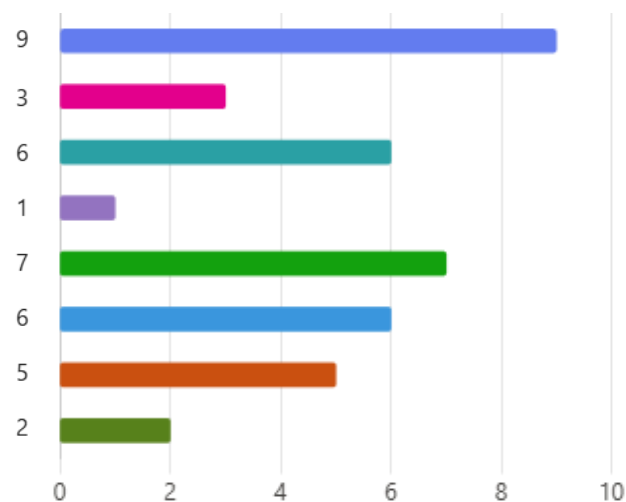
13. 前回の訓練参加者数

回答

職員約20名	約20人
約400人	不明
12	46
16人	15人
職員31人，バイト学生5人	22

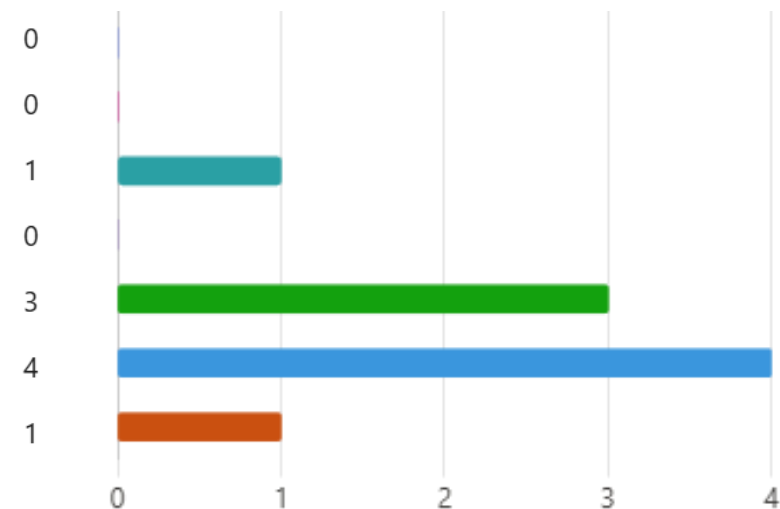
14. 避難訓練に含まれる内容（複数選択）

- 地震が発生した時の初動対応（机の下に隠れる等）
- 複数言語での館内放送
- 要援護の利用者の避難（例：障害者、けが人）
- AEDの使用
- 初期消火訓練
- 避難経路の確保
- 書庫利用中の利用者への対応
- その他



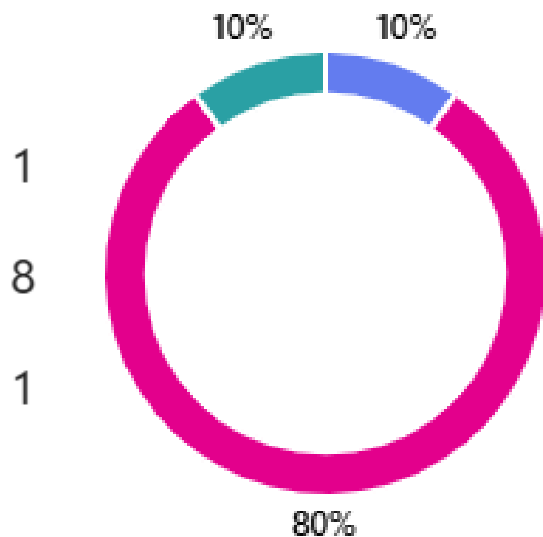
15. 訓練で使用する具体的な避難器具の名称

- 避難はしご
- 緩降機
- 救助袋
- 滑り台
- 担架
- 車いす
- その他



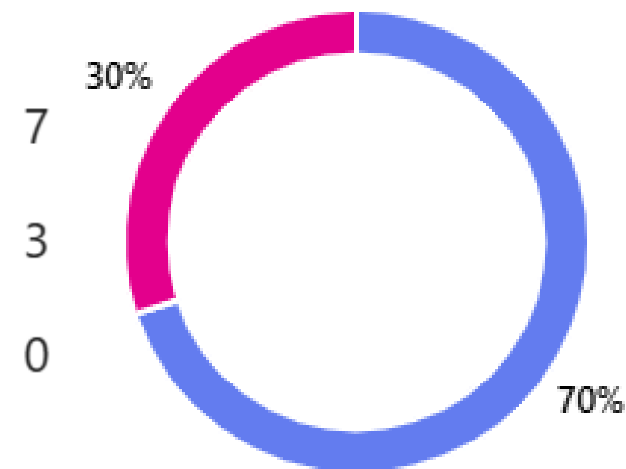
16. 通常の避難場所はどこですか？

- 館内の安全なところ
- 屋外の安全なところ
- その他



17. 大雨やその他の特別な状況（夜間職員のみ等）での対応は別に定められていますか？

- 定められている
- 定められていない
- わからない



18. 前問に「定められている」と回答した場合、具体的な対応・避難場所等をお答えください (1)

回答

夜間休日は業務委託スタッフ（社会人1名、学生2名）のみで対応するため、避難誘導や被害確認の役割分担が平日昼間と異なる。状況によっては、大学の警備員や自宅にいる職員に応援を依頼することとしている。

津波警報、大津波警報が発令されている場合には、本館3階、蔵本分館2階へ避難することとしている。時間外開館時は、学生アルバイト2名による対応となるため、役割を分担すること、状況が落ち着き次第、職員に連絡を取ることとしている。

水害対策の対応として漏水発見時には館内報告を行い、措置（ブルーシート・バケツなどにより養生・現場周辺の除水作業、資料の退避、施設部への連絡）を実施し、資料保保全（搬出、トリアージ、補修）を行い、被災記録を行う。避難場所は、中央図書館は図書館前の広場となっている。気象状況の対応として本学と図書館の規定に基づき臨時閉館を判断し、普及グループリーダーより各館へ臨時閉館の通達があり、館内放送などで利用者への退館を促す。その作業に合わせて図書館ホームページなどで広報も行う。

18. 前問に「定められている」と回答した場合、具体的な対応・避難場所等をお答えください（2）

回答

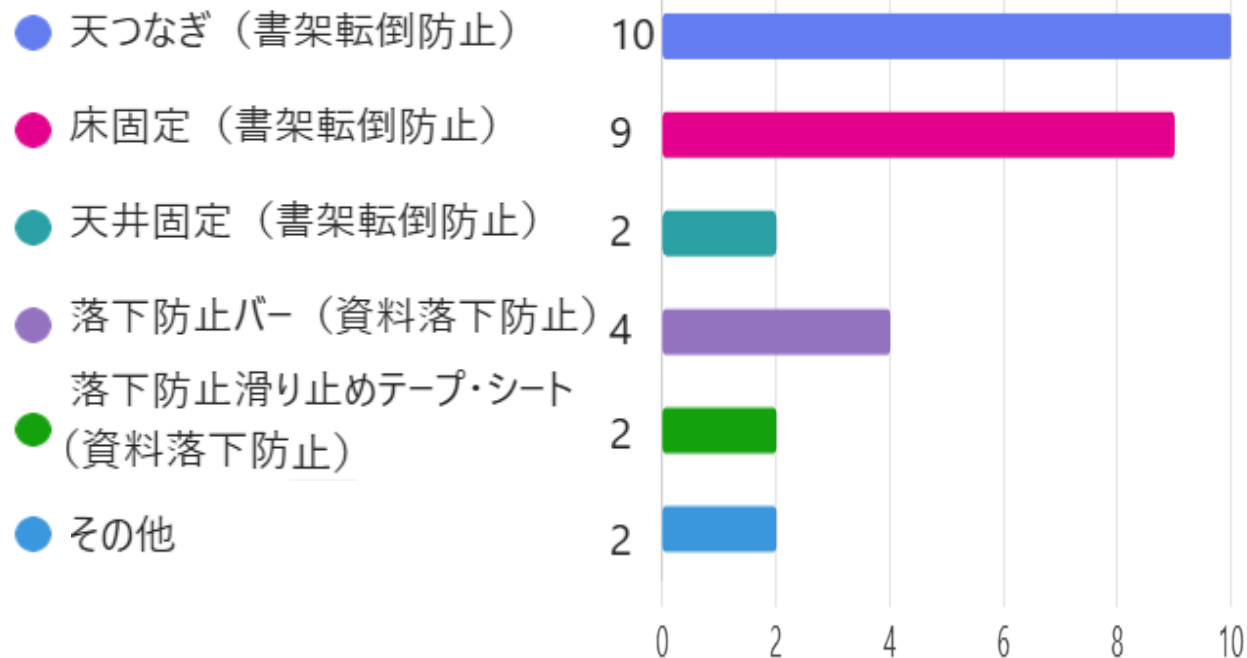
時間外緊急連絡網の作成

担当に連絡し、指示を仰ぐ。

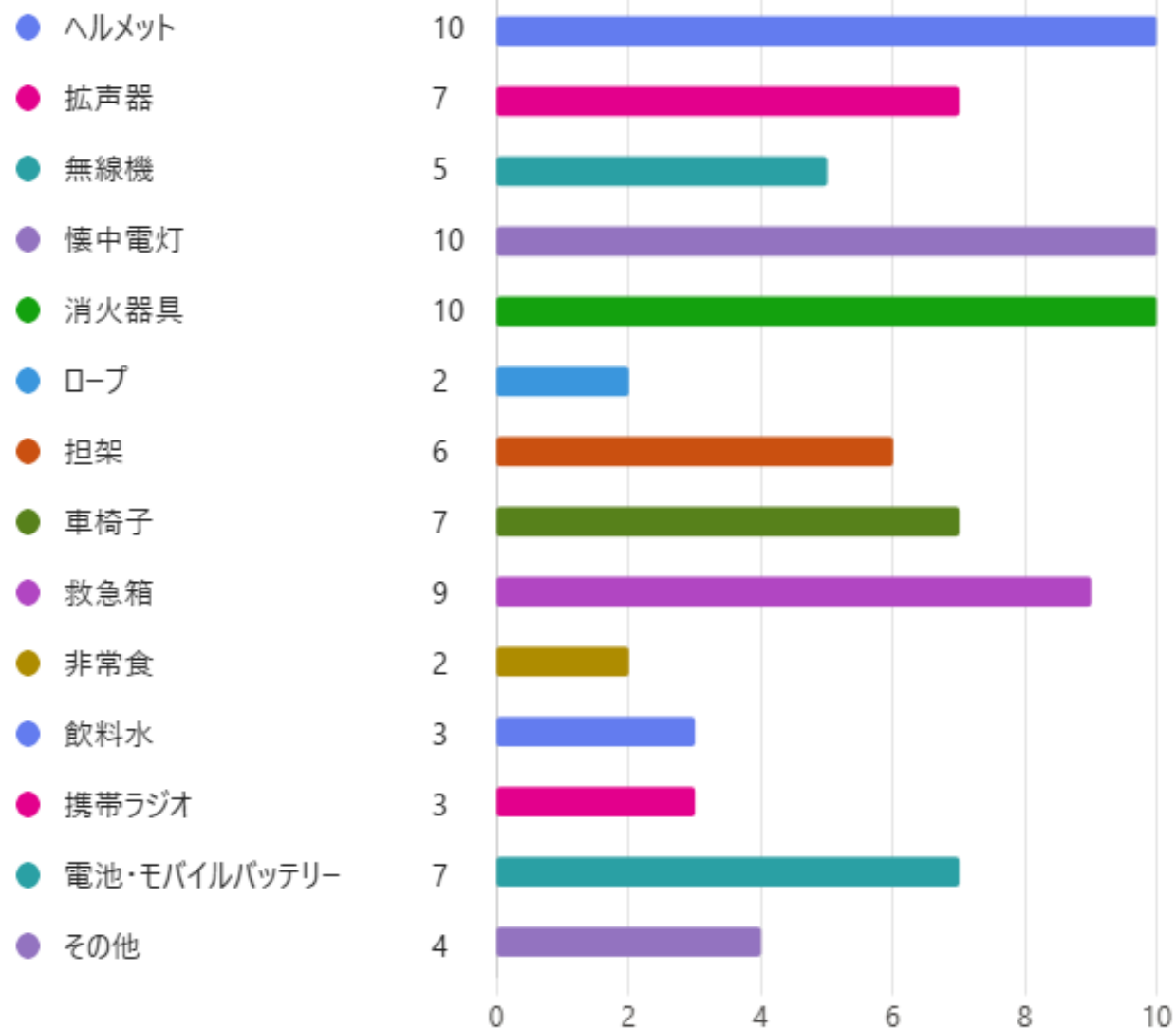
マニュアルを用意 避難誘導と常勤職員への通報 避難場所 図書館の建物から離れた広場

夜間・土日祝日開館時の緊急時対応マニュアルを定め、火災・地震・停電等ケース別の基本対応を記載している。

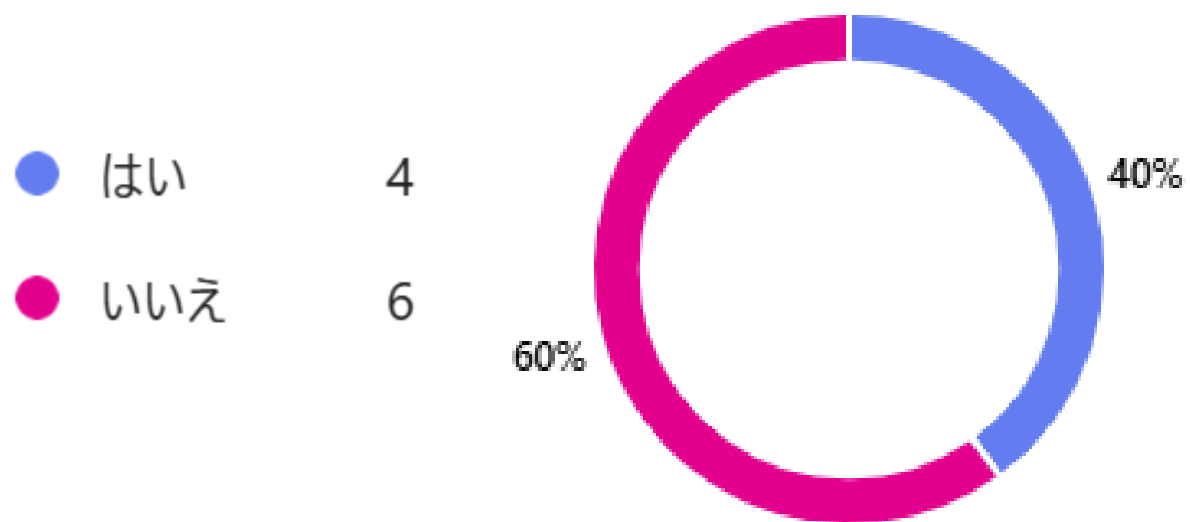
19. 書架の転倒や資料の落下の防止策は取っていますか？（複数選択）



20. 地震に備えて、館内で準備・配置している対策グッズはありますか？（複数選択）



21. 訓練時以外で、来館者に対して地震発生時の対応方法（避難の仕方など）を案内していますか？



22. 前問で「はい」と答えた場合、どのような方法で案内しているかお答えください。

回答

掲示物にて非常口を案内

館内にポスターを掲示している。

ポスターの掲示

ポスター

23. 訓練後のフィードバックはどのように行っていますか？そのフィードバックが改善につながった具体例はありますか？

回答

防災訓練の実施報告書を作成し、防災担当の教員から講評を受けている

訓練終了後、館長、部課長等から講評を行っている。

防災訓練参加者からの意見をメールや口頭で聞き取りをし、訓練マニュアルの手順見直しや修正をおこなっている。また、消防署の方に立ち会っていただいて訓練を実施することもあり、その時は講評でご指摘いただいたことを修正したこともある。

全学の訓練担当部署である施設企画課が訓練後に事後検証として意見を集約し、次年度訓練の改善につなげている。

訓練後、館内に意見や要望等を照会している。

訓練結果を踏まえた当館独自の防災マニュアルの見直し

全体訓練に対する所感等の報告を行っている。

24. 地震対策に関して課題に感じていることはありますか？ (1)

回答

マニュアルに基づいて全学で実施している訓練のみでは、地震発生時に冷静で組織的な行動がとれない可能性が高い。そのため、震災発生時に各職員が確認する場所を定め、確認後の対応等を記したシンプルな資料を作成し、現在課内で検討している。予め各職員の確認場所を定めて、定期的に震災時の行動手順を共有していけば、組織的かつ迅速に怪我人の確認等にできると考える。

館内の被害状況によって、避難誘導に困難が生じる

・地震発生時の対応について職員全体で共有できていない。・地震発生後の復旧（初期対応）から図書館業務再開までの流れについても、具体的な検討が行なわれていない。・利用者向けの館内掲示等ができていない。・防災および被災後の対応についての全体的なイメージ不足。

・地震発生直後の初動行動については、震度や津波警報等により臨機応変に行動する必要があるが、マニュアル化が困難である。・地震に伴う火災や津波があった場合に備え、貴重資料や業務に必要な資料など非常持ち出し品として指定しているが、分量が多く、全てを持ち出すことはかなり困難だと感じている。優先的に避難させた方がよいものの選定や、被害を受けた資料の復旧などについて、事例があれば知りたい。・本学体育館が市の指定避難所であるが、当課が災害時の運営担当となっており、館内での対応もある中で避難所対応を行うことに不安がある。

24. 地震対策に関して課題に感じていることはありますか？ (2)

回答

建物の階数があり、また1つのフロア内に各部屋があり避難誘導に時間がかかると思われる。天窗や大きなガラス窓があるので、破損するような状況になると、人的被害が出やすくなるの可能性がある。外国人留学生が多いので、避難・誘導時にどこまで適切な対応ができるか。準備していてもとっさの時にどこまでできるか。

・入館者の訓練への参加協力が得られにくいため、参加は任意となっており、実際に発生した場合の入館者の誘導・安全確認に多少の不安がある。・夜間に発生した場合、職員の参集が困難と考えられる。

実際に訓練どおりの行動ができるかどうか。

・ここ数年の学内全体の防災訓練は、地震を想定した防災訓練である。火災など地震以外の災害発生を想定した図書館独自の防災訓練の実施が必要。・日本語能力が十分ではない利用者や障がい者への適切な避難誘導、また、帰宅困難者への対応など・夜間・休日等少数の職員による災害発生時の対応

25. 地震対策について、過去の経験から得た教訓やそれを受けた改善点があれば教えてください。

回答

書庫内の安全な場所が一目でわかるように、床を赤い枠で囲み、中央に「安全地帯」と大きく示している。

教訓として、倉庫内書架の転倒により、ドアを開けることができなかったと聞いている

訓練の際、非常ベルが鳴動していることにより非常用放送設備による避難誘導などの放送が聞き取れない場合があったため、非常放送設備からの放送の場合は非常ベルの鳴動を停止するよう手順を変更した。

落下防止シートの上には、重い本はできるだけ置かないようにする。

大規模災害が発生し実際にあった被害状況等の情報をもとに、普段の防災意識の向上につなげるように気を付けている。

26. その他、追加・補足したいことがありましたら、ご入力ください。

回答

構造上、書庫内で耐震性が弱い場所がある。震度が激しい場合、書庫の内部構造が脆くなる危険性がある。確認する職員についても、書庫内は立ち入らないよう注意するなど、安全配慮が必要。

各職員へ役割分担を行いシナリオ型の防災訓練を例年実施していたが、他の職員でも違う役割がいざという時でも対応できるようにするため、昨年度は、参加者全員に各現地での対応手順の説明を実施した。